

井田病院患者送迎用シャトルバスについて

1 これまでの経緯

■ 試行運行の開始【平成18年12月11日】

目的 井田病院再編整備基本構想の策定（平成18年3月）や、地域がん診療連携拠点病院の指定（平成18年8月）を受け、市内の中心部に位置し、再開発が進み人口増加が予想される武蔵小杉駅から試験的に無料シャトルバスを運行し、患者の利便性の向上と患者エリアの拡大を図る。

概要 武蔵小杉駅と井田病院を結ぶ直通バスを無料運行する。

運行期間 平成18年12月11日から平成19年11月30日まで

■ 試行期間の延長と途中停車場①の設置【平成19年12月3日】

概要 アンケート等で最も要望が多かった「途中乗車」の御意見等を踏まえ、路線バスからの乗換えが可能な途中停車場①を設置。併せて試行期間を延長。

停車場所 井田1丁目交差点付近（漆原眼科前）※下図参照

運行期間 平成21年3月31日まで延長

■ 試行期間の再延長と途中停車場②の設置【平成21年4月1日】

概要 利用状況を踏まえつつ更なる利便性の向上を図るため、途中停車場②（武蔵小杉駅と途中停車場①のほぼ中間地点）を設置。併せて試行期間を再延長。

停車場所 法政二高グランド前 ※下図参照

運行期間 井田病院再編整備終了まで延長

<患者送迎用シャトルバス 運行ルート>



■ 運行本数の見直し【平成25年4月1日】

概要 利便性の向上を図るため増便。併せて、分かりやすい運行ダイヤに見直し。

見直し内容

1日28便（片道14便）

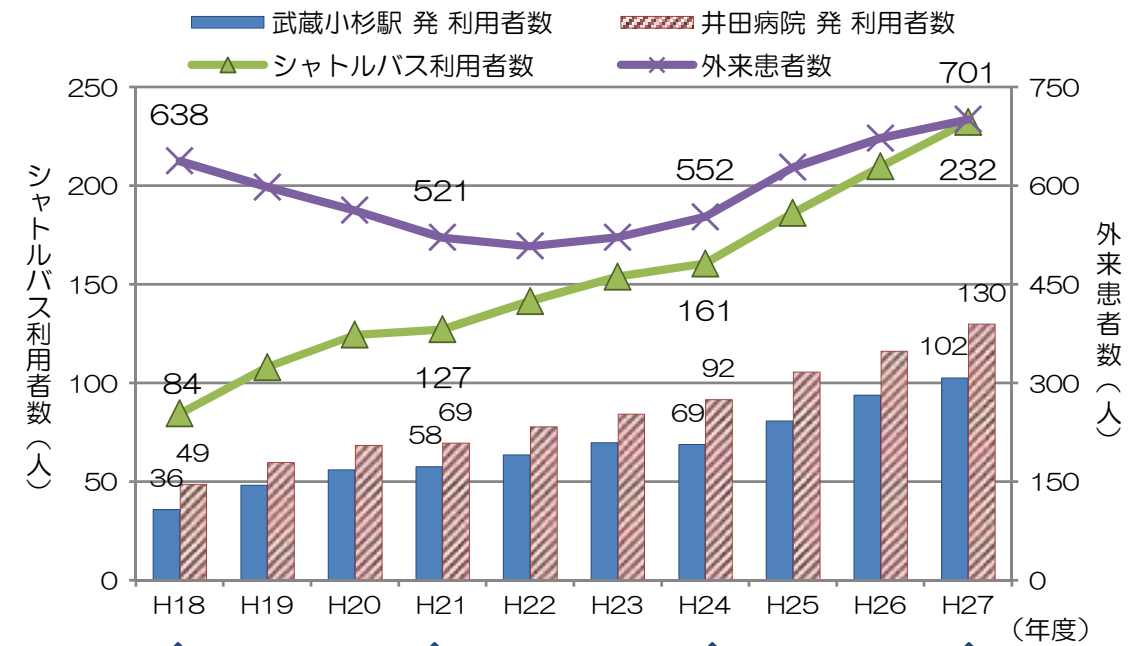
↓
 1日30便（片道15便）

※午後の運転手休憩時間（1時間）を廃止し、運転手の交代制を導入。

2 シャトルバスの利用状況

※H27年度は、4月から12月までの9ヶ月（182日）間の実績値

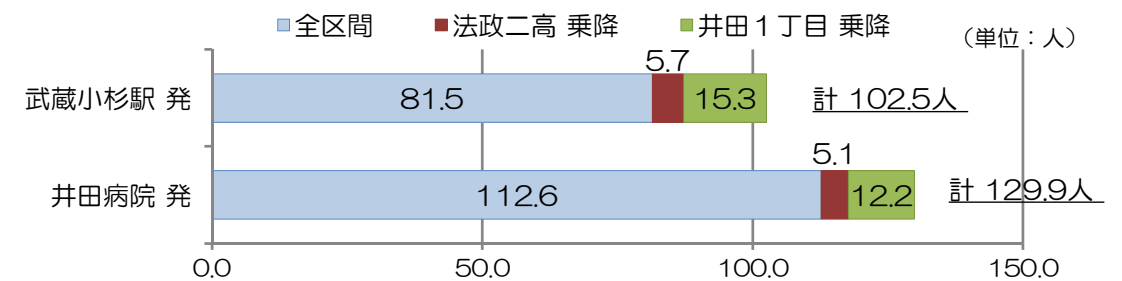
シャトルバス利用者数と外来患者数の推移〔1日平均〕



がん拠点病院承認 再編整備工事開始 新棟一部開院 新棟全部開院

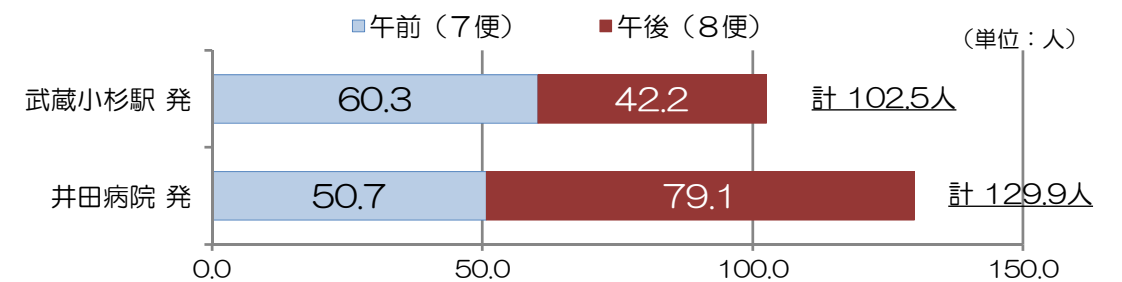
平成27年度

乗車地別利用者数〔1日平均〕



平成27年度

出発地別・時間帯別利用者数〔1日平均〕



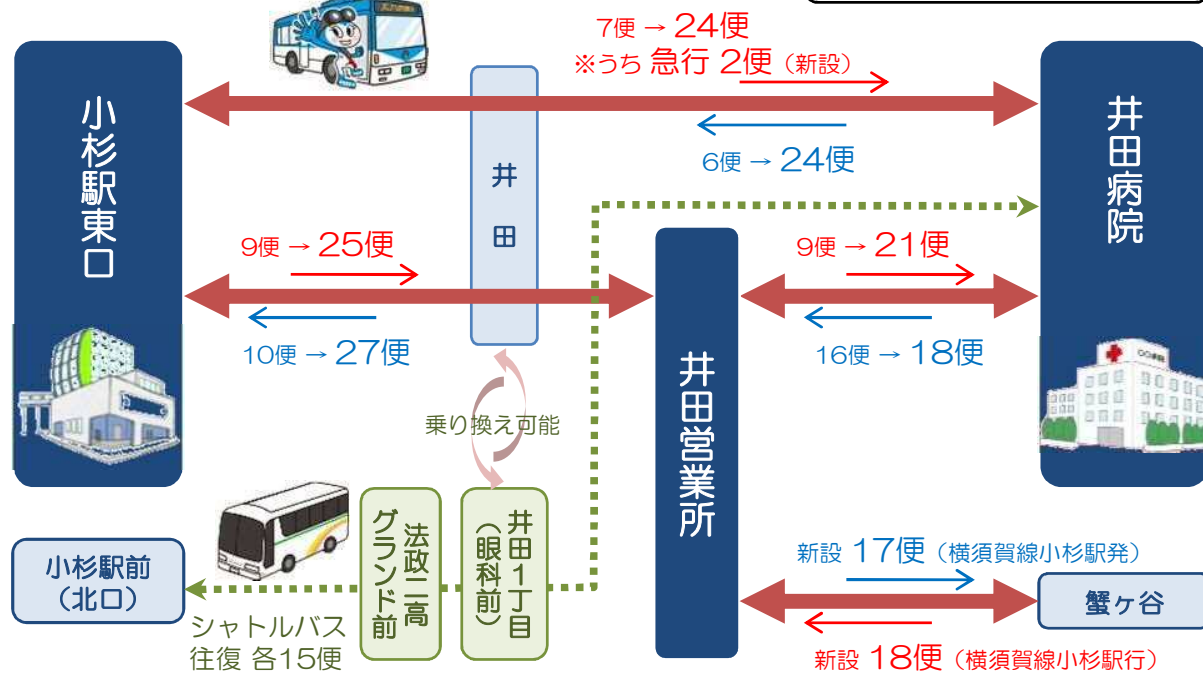
3 路線バスの充実と運行継続にあたっての課題

(1) 小杉駅東口ー井田病院間の路線バスの充実【平成28年4月1日】

平成28年4月1日から、小杉駅東口を中心とした市バスアクセスの充実が図られる。

- 井田病院ー小杉駅東口の増回（北口から東口へ変更）
- 井田病院乗継便（井田病院ー井田営業所）の増回（最寄停留所ー井田営業所と乗継便で一乗車分の料金）

※ 図中の便数は、平日ダイヤの数。
（市バス運行ダイヤは、現在最終調整中。）



(2) 満員による乗車制限の発生など

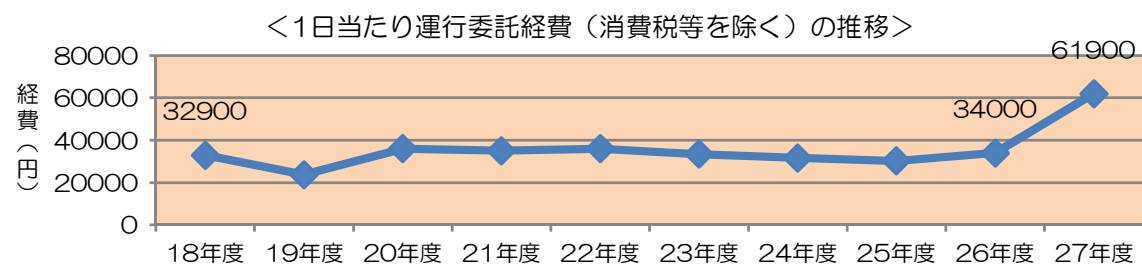
利用者の増加に伴い、平成27年4月から12月までの9か月間で、補助席を使用しなければならない「22人以上が乗車したケース」が31回（前年度は13回）、満員により乗車制限を行わなければならないケースが4回発生している。

平成26年度（1年間）		平成27年度（4～12月）	
22人以上が乗車したケース	13回	22人以上が乗車したケース	31回
1便当たりの最高利用者数	25人	1便当たりの最高利用者数	満員（4回）

(3) 新たな運賃・料金制度の導入に伴う運行委託経費の増大

一般貸切旅客自動車運送事業に係る「新たな運賃・料金制度（時間・キロ併用制）」導入の影響により、平成27年度からシャトルバス運行委託経費が増大（従来の約1.8倍）している。

〔運行委託経費 平成26年度 約827万円 → 平成27年度 約1504万円（消費税等を除く）〕

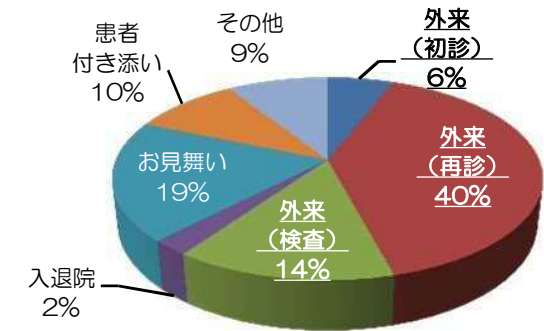


4 利用者の実態調査（アンケート調査）から

調査期間 平成27年11月25日(水)から27日(金)までの3日間
調査対象 シャトルバス利用者 688人
有効回答数 415人（既回答者、回答拒否を除く）

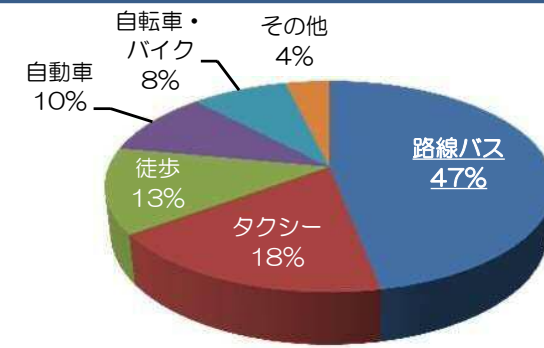
(1) 来院目的

「外来（再診）」が約40%（163人）と最も多く、次いで「お見舞い」の約19%（78人）となっている。
また「初診」「再診」「検査」を合わせた外来の合計は、全体の約60%（244人）となっている。
〔n=408〕



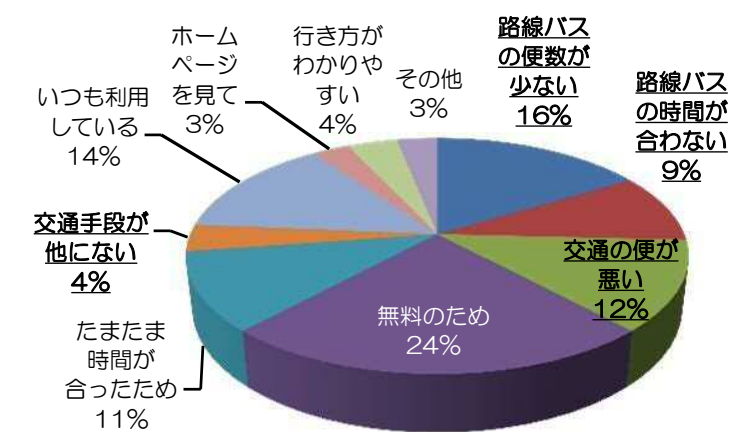
(2) シャトルバス以外での来院方法〔複数回答可〕

「路線バス」が約47%（222件）と最も多く、次いで「タクシー」の約18%（85件）、「徒歩」の約13%（62件）となっている。
〔n=473〕



(3) シャトルバス利用理由〔複数回答可〕

「路線バスの便数が少ない」、「路線バスの時間が合わない」、「交通の便が悪い」、「交通手段が他に無い」といった、交通アクセスに係る回答は、合計で約41%（295件）となっている。
〔n=706〕



5 今後の運行の方向性等

- 路線バスの充実により、シャトルバスの当初の目的である「患者の利便性の向上と患者エリアの拡大」が図られること、また、無料のシャトルバスを引き続き運行することは、その充実が図られた路線バスの利用を妨げる要因となることなどから、平成28年3月31日をもって、シャトルバスの運行を終了する。
- 運行終了にあたっては、病院ホームページやシャトルバス車内・院内への掲示のほか、案内ちらしの作成・配布、あるいは近隣町内会への説明や回覧の依頼など、様々な媒体を活用し既存利用者等への周知徹底を図る。〔2月15日(月)から順次広報開始予定〕
- 引き続き、患者等へのアンケート調査等により、交通アクセスの状況把握に努める。